新球友

同志社大学体育会軟式野球部会報

第四四号　令和６年11月

同 志 社 大 学 体 育 会 軟 式 野 球 部

部長　笠井　高人　　第四四号責任者　今門　良太

Doshisha College Song

Words by W.M. Vories

Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify ; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

Doshisha Heroes

（again）Doshisha heroes ever must win,
Fight to the finish, never give in, La La La
All play your best, boys,
We'll do the rest, boys.
Fight for the Victory.
La, La, La,　（again）
Doshisha wins today.

Doshisha Cheer

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!

One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!　（applause）

目次

令和六年度役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
部長として　笠井　高人・・・・・・・・・・・・・・・4
球友会会長として　田村　好司・・・・・・・・・・・・5
監督として　手塚　整廣・・・・・・・・・・・・・・・6
主将として　島田　涼平・・・・・・・・・・・・・・・7
新球友によせて　山西　准平・・・・・・・・・・・・・8
全日本大学軟式野球連盟概要・・・・・・・・・・・・・9
随想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
四回生終身成績・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
２０２３年度秋季リーグ・・・・・・・・・・・・・・２８
２０２３年度新人戦・・・・・・・・・・・・・・・・３２
２０２４年度春季リーグ・・・・・・・・・・・・・・３３
第４回全日本大学軟式野球選抜大会・・・・・・・・・３７
メモリアルスナップ・・・・・・・・・・・・・・・・３８
軟式野球部規約・公式大会登録に関する規定・・・・・４３
球友会　各位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
球友会会計報告・特別寄付・・・・・・・・・・・・・５０
球友会会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
球友会会員及び現役名簿・・・・・・・・・・・・・・５７

「新球友」第四四号発刊にあたって

新球友もおかげさまで第四四号をむかえることができ、発刊に際しましては球友会の皆様はもとより、他大学の方からもご寄稿を賜りましてありがとうございます。

我が軟式野球部の今年度の成績と致しましては、ライバル立命館大学を破り、春リーグ優勝、秋リーグは惜しくも3位という結果に終わりました。夏の全国大会に2年連続の出場を果たしましたが、ベスト16で敗れました。後輩たちには悔しさを胸に今大会以上の結果を期待しています。

今後とも先輩諸兄にはご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2024年度軟式野球部・球友会役職一覧

軟式野球部

	スタッフ		
	部長	笠井　高人	
	監督	手塚 整廣	S56
	コーチ	（田村 好司）	（S53）
		（岩佐 拓己）	（H14）
		（藤森 稔人）	（H18）

球友会（OBOG会）

役員			
役員会	会長	田村 好司	S53
	副会長	小林 宏行	S56
		大倉 広継	S56

監査役	木下 幸典	S51
	柴田 嘉宏	S61

現役員

役員会	幹部会	主将	島田　涼平	3回生
		副主将	今門　良太	3回生
		〃	小中　崇平	3回生
		〃	柳瀬　泰成	3回生
		主務	森本 圭介	3回生
		会計	齋藤　凱地	2回生
		連盟	唐木　弦	3回生
		渉外	丸本　拓弥	3回生
		ホームページ担当	斎藤　涼太	3回生
		道具担当	吉原　将太郎	3回生

事務局

事務局長	鈴木　勝也	H15
会計担当	岩佐 拓己	H14
総務担当	林　智之	H25
	神所　祐希	H27

顧問	（手塚 整廣）	（S56）
	長谷川 利通	H9
	藤森 稔人	H18
	本田 弦	H10

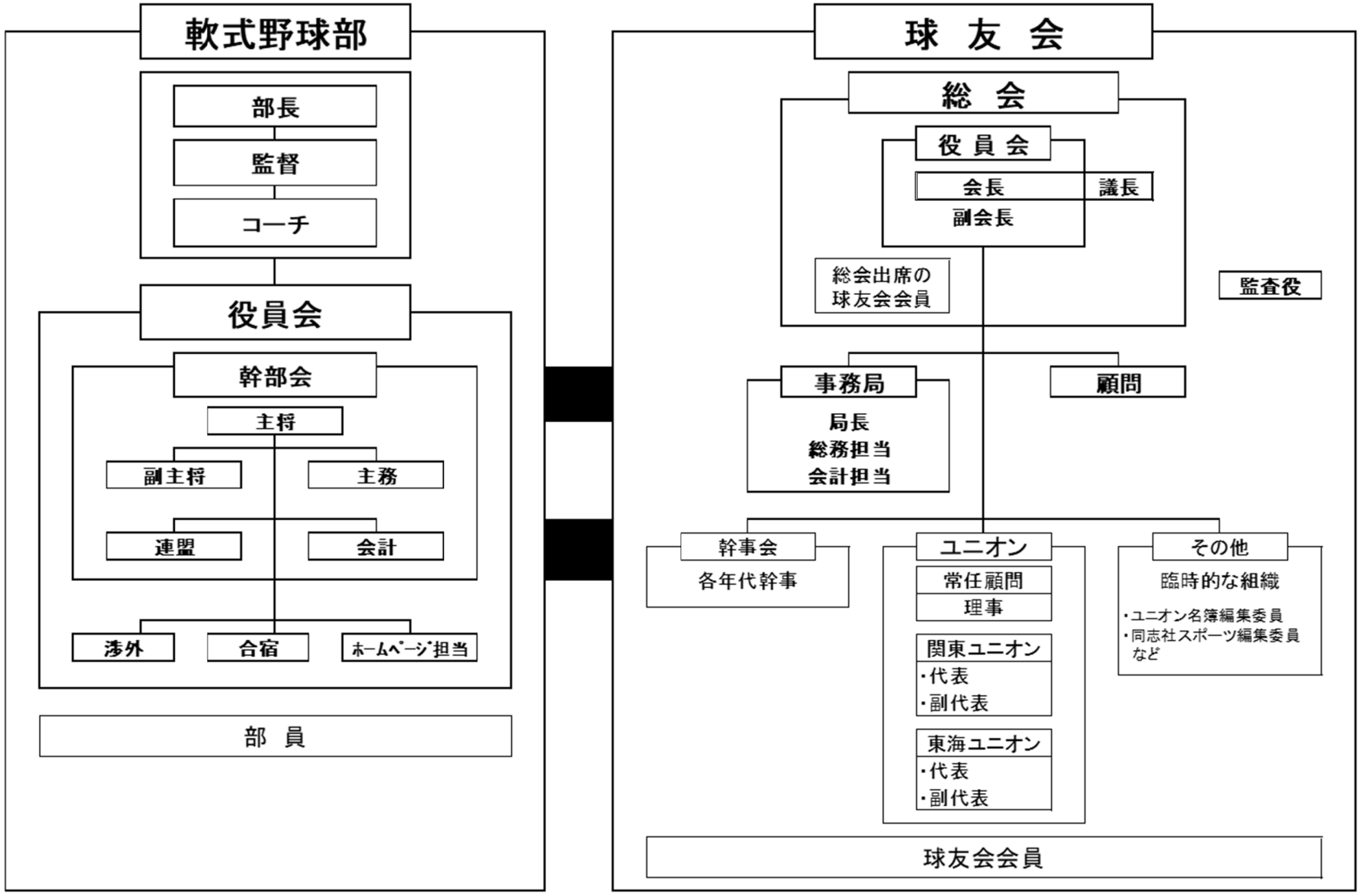
スポーツユニオン

相談役	塚本 幸雄	S46
理事	田村 好司	S53
理事	廣田 憲司	S43
理事	井垣 篤司	S54
理事	大倉 広継	S56
理事	平山 正則	S58
理事	岩佐 拓己	H14
青年幹事	小西 啓介	H10
青年幹事	鈴木 勝也	H15

関東ユニオン代表	坂下 雅弘	S59
〃　副代表	川上 晋	H12

東海ユニオン代表	平山 正則	S58
〃　副代表	岩田 拓朗	H18
〃　副代表	牧原 光章	H21

同志社大学体育会軟式野球部・球友会組織図



ご挨拶

部長　笠井　高人

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、球友会の皆様の日頃からの格別のご支援に厚く御礼申し上げます。とりわけ、今年度は全国大会出場に際する支援に加え、防球ネット購入費をご負担いただき、誠にありがとうございました。お陰様で現役学生のバッティング練習がより安全で充実したものになりました。

今年も、昨年に引き続き、夏の全国大会に進むことができました。ここ数年なかなか勝てなかった立命館大学をリーグ戦で下して全国の切符を手に入れた学生にとって、喜びはひとしおであったと思います。全国大会では、徳島大学に勝ち、続く大東文化大学には敗れて、順位は昨年同様ベスト十六となりました。同大会で立命館大学が優勝したこともあって、全国制覇を目指していた学生にとっては大変残念で悔しい結果かもしれません。その一方で、結果が示しているように、各チームの力が拮抗しているようなので、全国制覇の夢が叶う日もそう遠くないことでしょう。全国大会では、勝ち進めば酷暑の中での連戦となるため、慣れない土地でのホテル滞在で、少しでもいつも通りのコンディションでいられるようなちょっとした工夫や気遣いが明暗を分けるのかもしれません。学生には次期リーグ以降の課題として取り組んでもらえればと思います。

今年の夏は昨年以上の異常気象で、災害が頻発し、日々の生活をするだけでも命の危険が迫るほどの暑さでしたが、学生らはその中でも、可能な範囲で無理をすることなく、試合に向けた練習を欠かさず行ってきました。大きな怪我やトラブルなどが発生することなく、部活動を続けられています。活動の本旨である野球を楽しむことを学生が無事に続けられるよう、引き続きサポートいたします。

さて、本年も『新球友』を発行できる運びとなりました。今年で本誌も四十四号となり、毎年同様、試合や大会の記録だけでなく、主将や四回生ら現役学生の論稿はもとより、他大学の学生から賜った玉稿を掲載できました。なかでも学生らの「随想」は、大学生の青春をありのままに記録・表現していますので、熱い想いにくわえほとばしる若さ故にくすぐったくなる程の青臭さがこもった文章をご笑覧いただき、日頃の活動をご承知くだされば幸いです。

球友会の皆様におかれましては、今後とも現役学生への温かいご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げるとともに、皆様のご多幸を祈念いたします。

ご挨拶

球友会会長　田村　好司

同志社軟式野球部球友会会員並びに現役部員の皆様にはご健勝のことをお喜び申し上げます。平素は球友会へのご支援ご協力誠にありがとうございます。

今年もゲリラ豪雨や線状降水帯による集中的な豪雨により各地で大きな被害が出ています。特に、豪雨による道路の冠水などのニュース画像が多くみられました。雨量も過去の数値を大きく超えるもので、今までの経験が役に立たない状況です。年々地域も広がり被害も大きなものになってきています。また、新年早々には能登で地震が発生し大きな被害が出ました。8月には宮崎沖で地震が発生し、南海トラフ巨大地震発生の可能性が高まったとの情報が出されました。このような自然災害がいつどこで起こっても不思議ではありません。避難勧告などは各自治体等から出されますが、最終的には自分の判断になります。日頃からハザードマップの確認や防災意識をもって対応を考えておく必要があると思います。

さて、今年の現役チームは、春季リーグ戦では久しぶりに立命に勝ちリーグ優勝し、全国選抜大会に出場してくれました。頑張ってくれましたが、残念ながら今回も二回戦で敗退となりました。リーグ戦で2位の立命が関西ブロックを勝ち抜き、全国大会では初めて日本一となりました。選手たちは悔しい思いをしていると思います。遠くまで応援に来ていただいたＯＢＯＧやご家族の皆様には本当にありがとうございました。

また、秋季リーグ戦は現在６試合終了、２勝３敗１引き分けでリーグ優勝は難しくなっています。最後まで同志社らしく残り４試合戦ってほしいと思います。リーグ戦などの試合の状況はホームページの一球速報から見ていただくことができます。リアルタイムでの経過を確認することもできます。時間が許せばぜひご覧いただければと思います。

今年も夏季総会は規模を縮小し行わせていただきました。ご了承ください。秋の球友会は従来通りにＯＢ戦、総会、懇親会を開催させていただく予定です。多くのＯＢＯＧの参加を期待しています。また、コロナ禍により総会が開催できなかったこともありＯＢ会費の納入者数が減少しています。今一度会費納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

今後とも軟式野球部及び球友会活動へのご協力ご支援の程よろしくお願い申し上げます。同志社大学軟式野球部関係者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶

監督　手塚　整廣

同志社大学軟式野球部球友会の皆様並びに現役部員の皆様には益々のご健勝のこととお喜び申し上げます。

令和６年、年初から能登半島地震が起こりました。被災されました方々には心からお見舞いを申し上げます。また、被災地域が一日も早く復旧を果たし、日常を取り戻すことが出来るように祈念いたします。

本年、パリオリンピック、パラリンピック競技大会が開催され、日々奮闘される選手の方々の姿に感動と勇気をもらえました。

また今年は、高校野球の聖地甲子園球場の１００周年記念イベントも行われて、気温の高さにも増して暑い夏を感じました。

島田新主将率いる新チームは、昨秋の新人戦初戦で立命館大学に破れました。そこからスタートしたチームは5年ぶりの春期リーグ戦優勝と全国大会への出場を目標にシーズンを戦いました。結果は、立命館大学とは星を分けましたが、９勝１敗で見事優勝を勝ち取りました。昨年の関西ブロック代表としての出場に引き続き、２年連続の出場となりました。試合内容としては、逆転勝利が5試合、1点差の勝利が４試合、２点差の勝利が3試合と接戦をものにして勝ち上がりました。

指名打者制度の導入により、打線の設定や投手の継投のタイミングが、今まで以上に勝敗を左右する場面が目立ちました。

堅実な守りとバッティングを強化して長野での全国大会に臨みました。結果は1回戦の徳島大学に7対1で見事勝利しましたが、２回戦で大東文化大学に健闘及ばず2対4で惜敗しました。接戦を勝ち抜くには、少ないチャンスを確実にものにする攻撃力を持つことと、無駄な四死球やエラーを無くし確実な送球が出来ることが必須になります。

２年続けての全国大会ベスト１６。この経験の積み重ねが強豪大学として優勝を狙えるチーム作りとなればと思います。

秋期リーグ戦優勝に向けてチームは今まで以上の強化に努めてきました。何とか春秋連覇を手にしてもらいたいです。

学生に事あるごとに話しておりますのが、コンプライアンスの問題です。昨今、体育会の辛い不祥事が、多々報道されています。

チームとして行動している時と個人になった時では意識も違うでしょうが、常に同志社の名を背負う誇り高き体育会の一員であることを忘れず「野球もマナーも日本一」のチームであって欲しいと思います。

最後になりましたが球友会の皆様、平素より学生へのご支援、ご声援誠にありがとうございます。学生の活動についてはホームページをご覧いただき、リーグ戦の模様は「一球速報」のアプリをダウンロードして御覧になってください。

皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

主将として　２０２４年度主将　島田　涼平

秋も一段と深まり、夏の猛暑は消え、朝夕は凌ぎやすくなりました。同志社大学体育会軟式野球部の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

中村前主将が率いる昨年度のチームは、様々なことに挑戦し変革を遂げたチームでした。部活動時には厳しい言葉もありましたが、そこには愛情がこもっており、また部活動外では近い距離間で接していただき、今でもあの日々が思い出せます。先輩と過ごした時間がかけがえのない思い出となりました。

昨年度はリーグ二位が二回、関西ブロック大会は優勝し、四年ぶり全国大会出場の切符を手にしました。関西ブロックでは天理大学相手に奇跡の逆転勝利をし、そのままの勢いで優勝まで駆け上がったことは忘れることができません。

また全国大会のレベルを肌に感じることができ、私は主将として全国大会ベスト１６の壁を越え必ず「全国優勝」を達成すると決心しました。昨年度秋リーグ後の新人戦では是が非でも優勝を目指すのではなく、春リーグに向けてのステップだと考えておりました。年が明けての練習でチームに二つのことを伝えました。一つ目は「チーム力」の向上、二つ目は「信じて繋ぐ」です。これらをチーム全員が心に留め同じ方向を向き練習し、試合を行うことで選手一人一人の力が集結でき圧倒的な力になると確信しておりました。

そこで迎えた春季リーグ、今門、柳瀬、中川など昨年起用していただいた選手が花を咲かせ、大和、檜山、石井など新戦力が加わり、四回生のベテランが融合し立命館に勝利することができました。そのままの勢いで九季ぶりリーグ優勝を果たすことができました。誰一人欠けることなく戦えたことがこのような成績になったと考えております。

全国大会初戦では、徳島大学と中盤まで五分五分の試合でしたが吉岡さんの一打で流れが変わり勝利することができました。２回戦の大東文化との試合では、厳しい展開になりながらも最終回中村さん、小嶋さんのヒットは忘れることができません。四回生の最後の最後まで諦めない姿勢はその後のチームに大きな影響をもたらしました。四回生が抜けた後の秋リーグでは不甲斐ない成績になりましたが、応援に駆けつけていただいたり、声をかけていただいたり、最後まで可愛がっていただき、また気をかけていただいたことは部員の励みになりそれと同時に嬉しさがありました。

この主将という役職を経験し得られた喜び、苦しさ、難しさを次のチームに良い形で引き継ぎ、次は「全国制覇」を達成するために新幹部をしっかりと支えられるよう精進します。最後になりましたが、日頃から多くのご支援を賜りまして誠にありがとうございます。我々同志社大学体育会軟式野球部の更なる発展のために、今後も多くのご支援、またご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

「新球友によせて」

立命館大学体育会軟式野球部　山西　准平

同志社大学体育会軟式野球部OBの皆様、初めまして立命館大学体育会軟式野球部主将の山西准平と申します。突然ですが、私は日本一の主将です。そうです、私たちの代が創部初の全国優勝を成し遂げました。大学野球生活で数々の思い出がありますが、最後に全国優勝できて気持ちも昂っております。そんな私たちが全国優勝できた理由は間違いなく、同志社戦の敗北だったなと確信しています。あの試合がチームを大きく変えるきっかけになりました。同志社大学との戦いはいつも以上に気合を入れ、対策もしていました。夜通しチームでテレビ通話をし、相手選手一人一人を細かく調べ上げました。毎年熱い戦いを繰り広げれたのは、お互いが一番のライバルだと認めていたからでしょう。今春の試合も夏の全国大会出場に向け、立ちはだかる一番大きい敵として最大の熱量で試合に臨んでいたのは間違いありません。しかし同志社大学の全国大会にかける思いやチーム力により完膚なきまでの敗北を味わいました。

去年までは差がなかった私たちになぜここまでの差が開いたのかと本気で考えました。何度もミーティングを重ね同志社大学との差について考えた結果が、「チャンスの時に、いかに点を取りきれているか」が差だと結論づけました。同志社大学はチャンスになると仕掛ける策や準備の仕方が弊部とは比べものになりませんでした。そこで私たちもまずは真似するところからスタートしました。一アウト三塁で軟式野球の特性を活かす「たたき」を練習し、確実に点の取れるチームを目指しました。また、軟式野球はゴロの捕球が難しいということもあり、強く低い打球を徹底する野球も行いました。確実に点を取る、そして強く低いゴロを徹底するそんな野球ができたからこそ私たちは強くなれたのだと感じます。その野球に辿り着いたのは紛れもなく、あの同志社戦の敗北です。目覚めの敗北とでも呼びましょうか。本心で話すと全国大会の決勝で同志社大学と戦いたかったです。リーグ戦で同志社に敗北し、ブロック大会でなんとか勝ち上がることができ、全国の決勝で同志社を倒したとなるとこれほどドラマなことはないと思ってました。このドラマがあるとすれば、日本中が釘付けになっているでしょう。

この四年間は、軟式野球を本気で取り組んでいる全員にとって、かけがえのない思い出となりました。最高の仲間がいて、最高のライバルである同志社がいるからこそ、最高に熱い戦いができました。そんな経験を人生であと何度できますか。私はこのひりつきと、それに伴う努力をこれからの人生も引き続き行おうと決めました。そうすれば必ず人生の走馬灯に出るくらいの色濃く残る思い出を作れるはずだと信じています。最後になりますが、同志社大学軟式野球部は私たちにとって最高のライバルとして戦っていただきありがとうございました。これからは見守る側ですが、引き続き熱い同立戦、いや立同戦を楽しみにしています。

全日本大学軟式野球連盟概要

1)名称

全日本大学軟式野球連盟

2)代表

会長 友重 竜一

3)設立

昭和 53 年（1978 年）

4)事務局

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-27-7 軟式野球会館 5F

TEL 03-3401-0824　FAX 03-3401-1842

5)加盟連盟(23 連盟)

北海道地区大学軟式野球連盟、奥羽地区大学軟式野球連盟、東北地区大学軟式野球連盟、北関東大学軟式野球連盟、東京六大学軟式野球連盟、東都大学軟式野球連盟、首都大学軟式野球連盟、東関東大学軟式野球連盟、南関東大学軟式野球連盟、関東新大学軟式野球連盟、東京新大学軟式野球連盟、東海学生軟式野球連盟、長野県大学軟式野球連盟、新潟地区大学軟式野球連盟、北陸地区大学軟式野球連盟、近畿学生軟式野球連盟、関西六大学学生軟式野球連盟、西都大学軟式野球連盟、京滋大学軟式野球連盟、中国地区大学軟式野球連盟、四国地区大学軟式野球連盟、九州地区大学軟式野球連盟、沖縄県大学軟式野球連盟

2023 年月 11 日現在

以上

全日本大学軟式野球連盟(公式ホームページ)https://junbf.jp/ より引用

軟式野球は、大正時代中期に日本で考案されたゴム製ボールを用いてプレーする野球であり、硬式ボールの野球に比べて危険性が少なく、より幅広い年齢層に普及し、野球の大衆化に大きく貢献してきた。特に、日本発祥のスポーツとして、国内だけでなく世界中のアジアや中南米諸国にも広がりつつある。

大学の軟式野球では、技術向上だけでなく、チームスポーツとして互いを助け合い、目標に向かって切磋琢磨しながら、人間性を育むことが重要である。大学で軟式野球に取り組む学生には、単なる技術力向上に留まらず、野球を通じて健全な精神と豊かな人間性の育成が求められる。また、少子化や競技人口の減少が進む中で、軟式野球をさらに普及させるための施策を考え、全日本軟式野球連盟を含めた組織全体の発展に貢献していくことが期待される。

連盟委員 唐木 弦

隨想

随想

経済学部四回生　雨堤　健太

思い返すと軟式野球部に入部した契機は単純だった。高校野球で苦楽を共にしたにも関わらず、性格が掴めていなかった橋本（現在も掴めていない）となんとなく見学にいった際、先輩がみんな面白かったから、ただそれだけだ。しかし、軟式野球部に入って本当に良かったと心から思う。その理由をここに記していきたい。

そもそも私は野球が下手だ。高校時代は万年補欠の選手であり、公式戦出場はたった一打席のみ。それも、結果は止めたバットがあたってしまったファーストゴロ。今思い返しても悔しさより恥ずかしさが勝る思い出だ。そんな私は、軟式野球部ではこの悔しさを晴らしてやりたい、そんな気持ちは毛ほどもなく、なんとなく入部し、それとなく部活を続けていた。野球が好きだったからというよりかは、先輩や同期といるのが楽しかったから続けていた。

しかし、私たちの代になってからなんとなくという気持ちはなくなっていった。それには二つ理由がある。

一つは、一人の喜びに全員で喜べる最高の同期がいたからだ。綺麗事ではなく事実である。特に三回生の春リーグ戦、二塁ベース上で見たベンチのみんなの笑顔は今でも思い出すと嬉しくなる。そんな同期と全国大会出場、全国制覇はもちろんだが、それより全員で最後までやり抜きたい気持ちが大きかった。だからこそ関西ブロックを優勝した試合、全国大会の試合も最高だったが、三回生の秋リーグ最終戦が私にとってはベストゲームである。あんなに仲間の活躍に嬉しくなった試合はなかったからだ。

もう一つは、豊和と平山の姿勢に動かされたからだ。最初は、前の代との勝ちへの熱量の差に戸惑いがあった。やる気をなくしていく選手も出てきて当時の体制に不満すら感じていた。だが、幹部として話し合う中で2人の先頭に立つ責任感を尊敬するようになり、その上自分の甘さを実感した。それからは、自分には引っ張っていく力はないため、ついていけなくなりそうな部員を支えようと頑張った。引退した今、幹部でいろんなことを話し合った経験を振り返ると凄く貴重だったと思う。

部員各々の野球能力に差がある組織で、一つの目標のために自分の役割を考えて動くことはこの軟式野球部でしかできなかった、他の大学生にはできなかったことではないかと思う。

なんとなくで入ったこの部活でこんなにもいい経験ができ、一生付き合っていきたいと思える仲間と出会えたことに、改めて同志社大学の軟式野球部に入部してよかったと実感しています。ありがとう。

末筆ではございますが、手塚監督、田村会長、笠井部長、塚本総監督をはじめ、多くの先輩方には日頃から多大なるご支援、ご声援を賜りましたことを心より御礼申し上げるとともに、今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生　天野　良亮

高校に入学し、硬式野球部に入部したものの、三年間一度もベンチに入ることもなく、何のために練習してきたのかもわからないまま高校野球が終わった。もちろん仲間には恵まれたし、三年間やりきったことに自信は持てた。だが、好きで始めたはずの野球は嫌いになりかけていた。加えて自分より野球がうまかった仲間は大学受験に現役で合格し、自分は浪人することが決まった。野球でも勉強でも大きな劣等感を味わった。過去に戻ってリベンジしたいと思ったほどである卍。

空白の一年が過ぎ、同志社大学に入学した。入学当初はコロちん、コロナウイルスの影響もあってつまらない日々が続いていた。〇〇ちんと呼ぶことで、つまらなかった日々も少しだけ面白くなりそうな気がした。ごめんなさい。あと一回だけ使わせてほしい。コロちんの落ち着き始めたころ、私はなぜかグラウンドにいた。軟式野球部に入部したのである。嫌いになりかけたはずの野球をなぜまたやることになったのか。野球への未練もあったかもしれないが、何よりもグラウンドで野球をする先輩方が楽しそうだったからである。まるで飲み会の席で他人の悪口で盛り上がるときの人たちのように。私にもう一度野球をやらせてくれるきっかけを作ってくださった先輩方には本当に感謝している。ここで大きな鼻クソがほじれたことをご報告させていただきたい。筆のおもむくままに文を書き、指のおもむくままに鼻をほじる、これが随想である。たぶん。

軟式野球部では今までにない経験ができた。それは全国大会出場である。チームの目標として全国制覇を掲げていたため達成できなかったことは非常に悔しいが、高校野球で何も成し得なかった自分にとって、全国大会に出場するチームの一員であったことは大きな自信となった。そして、何よりも軟式野球部の仲間と全国に出たことがうれしかった。それまでエゴイストだった私にとって大きな心情の変化である。軟式野球部の仲間は最高なのである。残った問題児三人は最後を全国で終えたようだが、私自身最後も全国で終われなかったのは、非常に悔しい。

私たちの代のチームを引っ張ってきてくれた豊和、平山、雨堤、愛人池田（副主将）、チームを支えてくれた佳奈ちゃんには特に感謝している。彼らの存在がなければ、このチームはなかったと思う。みんなを勝手に代表して感謝を伝えたい。同志社大学軟式野球部で過ごした時間があるからこそ、今ではこれまでの野球人生も良いものであったと感じることができる。好きで始めた野球を好きで締めくくれたこと、学生野球の最後を同志社大学軟式野球部で過ごせたことに心から感謝したい。

末筆ではございますが、手塚監督、塚本総監督、奥田前部長、田村球友会会長、笠井部長をはじめ、諸先輩方には日頃から多大なるご指導、ご声援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生　池田　駿介

「迷い」これが私が軟式野球部に入るきっかけとなった。大学では、野球は続けようと考えており、その中で、硬式をするのか準硬式をするのかで最初は迷っていた。高校の先生からは硬式をやって欲しいという後押し受けたが、自分自身に自信がなかった。準硬式の体験に行った際に、レベルが高いと感じ、そこで「迷い」が生じた。そこで、軟式野球部の存在を知り、体験に行ったことが入部のきっかけとなった。

私は、軟式に触れることがない野球人生であったため、なかなかボールに慣れず打撃に関しては苦労した。徐々に適応していき、一年秋のリーグ戦から出場することができた。一年生の秋リーグの立命戦を戦う中で、私の軟式野球部の向き合い方に変化が生まれた。立命館に敗れ、泣いている先輩方の姿を間近で見て、全国に出れないとわかった時に、「立命館に勝って全国に出ること」が私の目標に変わっていた。しかし、現実は甘くなく、リーグ戦では引き分けはあったが、それ以外は立命館に対して勝つことはできなかった。その中でも、二年生の春リーグの立命戦が印象的であった。やっと立命館に勝つことができると最終回の守備についた。しかし、結果はサヨナラ負け、あと一つ、あと一歩で全国という場面で届かなかった。全国の壁を感じた。そして、何としても全国に行きたいと思う瞬間になった。上級生になり、新人戦を優勝し、自信がある中挑んだ春リーグでも立命館に負け、また全国に行けないのかと感じた。しかし、ブロック大会で逆転劇の優勝で全国出場を決めた際、軟式野球部に入ってよかったと思えた瞬間であり、最高の気分であった。

軟式野球部の一番の苦悩は、指導者がいない点である。打撃に関しては、客観的に自分を見てくれる指導者がいなく、自分で全て考えないといけないことが難しい点であった。実際に、私の成績は年々落ちていく一方であった。下級生の頃はあれほど打てていたのに、上級生になり結果が出ない日々が多く、苦しい時期も多かった。軟式野球部では、下級生の頃から出ている選手が上級生になり成績が落ちていく例も見てきて、原因はトレーニングだと感じた。筋トレをしていないと体の動きと筋力が伴わず打撃フォームが崩れ、タイミングが合わないと今になって感じており、後悔している点である。後輩には、後悔してほしくないので、いち早く筋トレを始めて欲しいと感じている。上半身のパンプしかしてないと、ボールが投げれなくなるので、注意してください。下半身や瞬発系のトレーニングをしない本間さんにはならないでください。

軟式野球部の活動を通して、他ではできない事が多く経験できた。私の野球人生の中で最も楽しく野球をできた時間であった。それは、個性豊かで変人が多いチームメイトがたくさんいたからだ。先輩、後輩、そして何より同級生にはとても感謝している。

末筆にはなりますが、手塚監督、田村会長、塚本総監督、笠井部長をはじめ、多くの先輩方に心より御礼申し上げます。今後の体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生　梅田佳奈

私が、この同志社大学体育会軟式野球部に足を踏み入れるきっかけとなったのは、中高の六年間打ち込んだソフトボールを通じて出会った一人の友人の存在である。彼女と初めて出会ったのは中学生の時で、高校時代はチームメイトとして、そして良き友人として多くの時間を過ごした。

その後、私たちはともに同志社大学に進学し、彼女が「軟式野球部を見に行ってみないか」と誘ってくれた。大学で大好きな野球に関われること、彼女とまた同じ部で最後の学生生活を過ごせることを魅力的に感じ、見学に行った。何度か足を運ぶ中で、和気あいあいとした雰囲気がありながらも一人ひとりが熱い思いを持って練習に取り組む姿に惹かれ、入部することを決めた。

支えているようで、自分の方が支えられていた。ありきたりに聞こえるかもしれないが、私がこの部で四年間を過ごした中で一番感じたことだ。マネージャー経験がなく、右も左もわからなかった私たちを、先輩方や同期のみんなはあたたかく迎え入れてくれた。正直、至らないことだらけだったと思う。しかし、私はこの場所で、目標に向かって懸命に努力を重ねる選手を応援する時間が何よりも好きだった。

もちろん楽しいことばかりではなかった。次こそはと一丸となって挑んだ立命戦に敗れた時、選手がケガをしてしまった時、公式戦に出場する選手を選ばなければならない時、それぞれの努力を知っているからこそ苦しい時もあった。

そして、三回生になる少し前、彼女は一足先に野球部を卒業することを決めた。私は寂しい気持ちとこれからも自分は野球部でやっていけるのかという不安でいっぱいだった。特に同期のみんなは複雑な気持ちを抱いていたかもしれない。しかし、自分に対して変わらず接してくれ、どんな時でも目標を見失うことなく努力していた。その姿に私は何度も救われ、自分も頑張ろうと思えた。彼女もまた、部を離れた後も、大切な試合の前には必ず連絡をくれ、陰ながらずっと応援してくれていた。全国大会出場を決めた試合で、受け取った賞状を同期のみんなが持たせてくれた瞬間を、私は一生忘れられないと思う。

全員が熱い思いを持つからこそぶつかることもあったが、新たな一歩を踏み出していった彼女も含め、チームを四年ぶりの全国大会出場へ導いた同期のみんなを私は誇りに思う。その中に自分がいられたことは私の大学生活において一番の財産であり、これから先の人生の中でうまくいかないことがあっても、この四年間の彼らの姿に私は背中を押されるだろう。

末筆ではございますが、奥田前部長、笠井部長、塚本総監督、手塚監督、田村会長をはじめ、多くの先輩方にお世話になりました。四年間多大なるご支援、ご指導をいただき、心より御礼申し上げます。今後の同志社大学軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念いたします。

随想

文化情報学部　四回生　本間　習平

まず私はこの軟式野球部に入部してよかった。いやこの部活動でなければ、素晴らしい日々は得られなかっただろう。高校時代、ベンチ外、公式戦出場なし、コロナ禍による部活動停止三ヶ月、夏の大会中止、など不完全燃焼の野球人生を歩んだ。大学では何をするかを悩んでいたが、ふと見学に訪れた軟式野球部の雰囲気の良さや、や野球だけではなく色々なことを経験できる環境に魅力を感じ入部した。何か高校時代とは違うワクワク感や楽しさなどを多く感じることできた。だが部活動である以上実力主義であるのは間違いない。自分は試合に出場するのが他の同期に比べても少なかった。さらに私は自分自身にとても甘く、怠惰な人間である。そのためすぐ厳しい練習などから逃げることがあった。しかしながらそんな時にでも支えてくれたのがチームメイトだった。先輩方や同級生、下級生も声をかけてくれた。特に同級生には感謝しても仕切れないくらいの恩と素晴らしい時間を自分に与えてくれた。私自身の野球生活では素晴らしい日々を送れたのは同級生の存在があってこそだと今でも感じる。個人的な話ではあるが私がリーグ戦の最終戦でヒットを放てたのはチームメイト全員のおかげであると感じている。友は一生の付き合いと言われておるが、まさにその通りだ、やはり人は一人では何もできない、具体的には一人で生きていくのは悲しいことである。この随筆をもし読む機会があれば、一度今の大学生活を振り返って欲しい、そこには数々の辛さや、感動、嬉しさを共有してきた仲間たちがいるはずだ。今一度その人たちとの時間を大切に過ごして欲しい。

さてもう一つ私の大学生活で記入しなければいけないことがある。それが「筋トレ」である。私は入部当初はものすごいデブであった。肉まみれの顔、だらしない体、自身のない表情、など「漢」としての未熟さを大いに経験した。しかしそんな時ある先輩の素晴らしい大胸筋、広背筋、二頭筋、三頭筋を見た時に私の人生は大きく変わった。自分もマッチョになりたい、そこから私はジムに入会し、筋トレに励んだ。よくないことではあるが大胸筋の鍛えすぎで翌日の練習のキャッチボールに支障が出た日もあった。しかし私自身は何一つ後悔をしたことはない、たかが筋トレで筋肉を得ただけではないかと思われても無理がないが、私の人生においては筋トレが人生を好転させたと言っても過言ではない。筋トレというものと出会ってから私の人生は薔薇色、いやそれ以上の色を手に入れることができた。筋肉をつけたことにより、多少のことでは肉体的にも精神的にもびくともしない。まるで別人のような感覚を得ることができた。先ほど仲間の重要性を説いたがそれに匹敵するくらい、筋肉は大切なことである。

末筆にはなりますが、監督、球友会長を始め、諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致しまして、私の随想とさせていただきます。

随想

文学部四回生　小嶋　健心

私は二回生の夏に軟式野球部に入部した。大学入学時から一年半は硬式野球部で過ごしたが、決して満足いくものではなかった。度重なる怪我の数々、怪我組から復帰しては戻る繰り返しで二年の夏には塁間も投げられなくなっていた。そんな中、学生コーチになるか選手を続けるかの話を監督からされた時、学生コーチの素晴らしさも考えたが、それを上回るほど選手としてプレーしたいという気持ちが私にはあった。そこで高校の後輩であり、すでに軟式野球部のめっちゃええ奴として大活躍していた成尾に連絡し、軟式野球部について話を聞いてみた。話を聞くだけで入部したいと思い、すぐに見学をさせてもらって入部する運びとなった。

二年夏の入部ということもあり、先輩、後輩、同期の仲が完全に出来上がったチームに飛び込むことに不安があったが、皆が温かく迎え入れてくれ、すぐにチームに馴染むことが出来た。この寛大な心には本当に感謝しかない。この恩を結果として返したい所であったが、またしても怪我の数々と戦う日々が続いた。投げられない試合も多くチームには多大な迷惑をかけてしまった。そんな中でもこのチームで、全国で戦うことを目標にモチベーションを保ちながらリバビリに向き合い、目標通り、二度も全国大会で戦えたことが軟式野球部での最大の思い出である。

一回目の全国では同期とともに戦えたこと、二回目はリーグ戦を優勝して戦えたことなど、それぞれに違う喜びがあった。一回目の全国ではアクシデントが重なり、先発、四番、チアという物凄い大役を任されておきながら勝ちきれなかったことが非常に悔しかったが、とても良い思い出になっている。二回目の全国では、後輩に連れて行ってもらい感謝しかないのだが、投手として戦力になれなかったことが心残りである。三年秋、投手として部に残らせてもらったが、翌年二月に二度と投手が出来ない程の怪我をしてしまい、正直選手を続けるかも悩んだが、後輩たちの理解があり野手をさせてもらうことができた。とは言っても当分はバッティングすらも出来なかったため、サポート役に徹したが、この期間で野手の後輩とも話す機会が増えたことで仲を深められたことは非常に大きかったと思う。

結果的に私の大学野球人生は怪我による紆余曲折もあり、完全燃焼出来たとは言い切れないが、同期をはじめとした最高の仲間に出会えたことが、その挫折とは反対に得られた最大の財産であり、その仲間と過ごした時間がとても充実していたということは自信を持って言いきれる。そして改めて途中から入部した私を受け入れてくれた同期には感謝しかない。本当にこの仲間に出会えて良かった。ありがとう。

末筆ではございますが、手塚監督、田村会長、笠井部長をはじめ、多くの先輩方にお世話になりました。多大なるご支援、ご指導いただき、心より御礼申し上げます。今後の同志社大学軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念いたします。

随想　スポーツ健康科学部四回生　坂本　一磨

「野球は高校までいいや。」高校野球を引退した頃に抱いていた感情である。大好きで始めたはずの野球が、引退前には苦痛以外の何物でもなく、早く解放されたい一心だったからである。この時、自分は野球が嫌いになってしまっていたのだと思い込んでいた。

大学受験に失敗し、一年間の浪人生活を経たのちに、同志社大学に入学してもその思いは変わっていなかった。そんな時、入学式で仲良くなった同じ学部の友人に軟式野球部の体験練習に誘われたのである。私は軽い気持ちで行くことにした。体験練習を終えて、「やっぱり野球は楽しい」という思いが芽生えていたのである。それでも、家から学校に行くよりもグラウンドが遠いことや野球のほかにやりたいこともあり、入部に至るまでに非常に悩んだことを記憶している。それでも、「俺が入るから一緒に入ろう」とその友人に言われ、それなら、と私は入部を決めた。しかし、その友人は入部することなく喜劇サークルに入部してしまった。

一年間の浪人生活によって、高校野球引退時には六十一キロだった体重は大学入学時には八十八キロにまで膨れ上がっていたこともあり、なかなか体は思うようには動いてくれず、はじめは練習についていくだけでも精一杯であった。しかし、一年生の頃からスタメンとして出場する同期がいたこともあり、「早く試合で投げたい」という一心だった。

二年生となり、後輩が入ってきたこともあり、私は危機感を覚えた。それと同時に、投げ方がわからなくなってしまった。小学生で野球を始めてから十年以上での初めての経験だった。春の公式戦ではほとんど登板することができなかった。あの時期は全くと言っていいほどに楽しくなく、やめることを考えた時期もあった。それでも思いとどまれたのは、親身になってくださる先輩方や刺激しあえる仲間がいたからである。今思えば、あの苦しんだ時間は自分にとっては必要な時間だったような気がする。あの時期に積み重ねた一つひとつが、秋リーグで投げることができたことにつながった。秋リーグでは、バックの守備の力を借りながら、最優秀防御率のタイトルを獲得することができた。

三年生になってからは、一年前にできていたことができなくなったギャップにも苦しみ、思うようなボールが投げられなくなってきた。しかし、とにかく最後までやり切れたことで今では大きな達成感を抱いている。

大学野球では、野球の面白さも、苦しさも経験することができたと思っている。この経験をすることができたのは、自分に関わってくれたすべての方々のおかげであり、この場を借りて感謝の意を表したい。

末筆にはなりますが、手塚監督、田村会長、塚本総監督、笠井部長をはじめ、多くの先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念いたします。

随想

経済学部四回生　杉本　大地

「もっと野球が上手くなりたい」

この思いを抱いて、体育会軟式野球部への入部を決意した。中高ではレギュラーとして試合には出場していたものの、ライバルの怪我や監督のお情けで出場出来ていただけで、自身の実力でレギュラーを勝ち取ったことはほんの数回しかない。この経験から「たとえレギュラーをとれなくても、高いレベルの中で野球をすることで上手くなりたい」と考えるようになった。本格的に練習に参加するようになって、完全に私が実力不足であることを突き付けられた。バッティング練習ではそもそも当たらず、当たったとしてもつぶれて前に飛ばないことが多かった。また守備面でも高校生の時から課題であった送球難や捕球でもかなり苦労した。二回生になっても試合に出場するどころか、ベンチに入ることもあまりなかった。多分この時が一番腐っていた時期である。どうせ試合に出場できないのに、なんで体育会に入ってまで野球をしているのかわからなくなっていた。その時に一つ上の谷さんに「いっぱいバット振れば、勝手に良くなる」と金言をいただき、今までにないくらいバットを振り込んだ。その結果、左手の有鈎骨（ゆうこうこつ）を骨折してしまった。何をするにも激痛が走り、何もできない状態になった。引退まであと一年もないのに手術する必要が出てきたことで、公式戦に一試合も出場できずに引退するかもしれないという不安にいてもたってもいられなくなった。退部して野球を辞めようかとも考えたが、「上手くなりたい」という気持ちが強く、二月に手術を受けることにした。

手術後は左手の握力はほぼゼロに近い状態になり、体中の筋肉が落ちて脂肪になった。やることはただ一つ。リハビリ、トレーニングして野球できる状態にすることだった。そこからは握力など筋力の強化、バイト先の友人にバドミントンの羽根を投げてもらってティーバッティングをするなど練習を積み重ねた結果、三月には練習に復帰することができた。そこからはリーグ戦やブロック大会に出場することはなかったものの、打撃では練習試合や紅白戦で強い打球が増えたことや、守備でもエラーも少なくなり、送球も少しマシ?になったことで確かな手応えを感じていた。全国大会でもメンバーに選ばれず、悔しい思いをしながら連盟委員としての仕事をこなしたこともあったが、決して諦めずに練習を重ねた。

そして秋リーグ最終戦、引退試合では六番レフトで出場し、一本のヒットを打つことができた。この一本は諦めずに努力しただけでは決してなく、先輩方、同期、後輩、友人の協力があって生まれた一本だと思う。本当に感謝しかない。おかげで野球を辞めずにやり続けてきてよかったと心の底から思えている。

末筆にはなりますが、手塚監督、田村会長、塚本総監督、笠井部長をはじめ、多くの先輩方には多大なるご支援、ご声援を賜りましたことを心より感謝申し上げるとともに、今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生　谷　尚樹

「今日から俺の華の大学生活が始まる。」大学一回生の四月、そんな期待を抱き、入学式を迎えた。綺麗な街並み、人の多さ、そして何より可愛い子が多い。香川県の片田舎から出てきた私には全てが新鮮。人生一度きりの大学生活、とことん遊びまくる予定であった。なぜそんな私が軟式野球部に入ったのか、そしてこの部活動での思い出を振り返る。

私は当時、この軟式野球部の存在すら知らず、サークルの新歓を転々としていた。そしてとある野球サークルの新歓試合での出来事である。野球の試合をしているものの、正直レベルが低かった事に加え、独特なサークルのノリがしょーもなさすぎて全然面白くなかった。なんて思っていると、同じ一回生に軟式野球部の体験に一緒に行かないかと誘われ、面白そうだと思い体験に行った。そこからの記憶はとても鮮明である。初対面である私を優しく受け入れてくれた先輩達に加え、楽しいだけでなく本気で野球に取り組むことができる環境がとても魅力的に感じた。コロナで大会が無くなった高三の夏、高校野球の不完全燃焼で終わった。「もう一回ここで満足いくまで野球をしよう。」そう思い、入部を決断した。そして私の軟式野球部ライフが始まった。

入部当初は軟式野球にとても手こずった。慣れないバット、慣れないボール。最初は怪我もしたし、打撃もうまくいかずに自信が無くなった。しかし、慣れないながらも自分なりに勉強したり、素振りをしたり、一華咲かせるために頑張った。そして一年後、なんとか春リーグで一塁手として定着した。そしてそのリーグ戦での立命との二戦目、この試合は生涯忘れない。チーム初安打のセンター前を撃ち、その後ライトに弾丸ホームランを放った。ベースを駆け回り、ホームを踏み、ベンチに戻った時の仲間の笑顔、柴田さんからの「お前ならやってくれると思った」という言葉。まさに絶頂であった。自分でも意味が分からないくらいに脳みそから何かが分泌されていた。大好きな先輩と全国に行けなかったのはとても心残りではあったが、ベストナインという成績も残せた個人的にはとても満足なリーグ戦であった。でもそれで燃え尽きてしまっていた自分がいた。優越感に浸り努力を怠った。それからというもの結果はみるみる落ちていく。三回生の夏、もう気づいた時には遅かった。そこから何もできなくなってしまった。仲間には迷惑をかけてしまい申し訳ない。しかし、この大失敗は人生において大きな学びとなった。仲間にはとても感謝している。

温かく接してくださり居場所を作ってくれた先輩方、チームを引っ張ってくれた豊和と平山と池田、最後までずっと支えてくれた佳奈ちゃん、いつも一緒にいてくれたアマと良亮と本間、仲良くしてくれた後輩達、チーム皆のおかげでとても充実した大学生活になりました。本当に心の底から感謝しています。この部活に入ることができて私は幸せでした。

今後の軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念しております。

随想

法学部四回生　東垣　楓人

「大学でも野球をしたい。」高校時代は肘の怪我や新型コロナウイルスの影響で練習、試合ができないなどと不完全燃焼であった。そこで、プライベートとの両立が可能で楽しく真剣に野球に打ち込める軟式野球部に入部した。

入部後はとにかくバッティング練習が楽しくて仕方がなかった。その理由はとにかく打てたからだ。非力な自分でも性能のいいバットのおかげで打球をある程度飛ばすことができるし、当時はどんな球でも打てる気がしていた。そこで先輩方から打撃を買われ、一回生の秋リーグからベンチに入れてもらい、下級生の頃から貴重な経験ができた。秋リーグ終了後の新人戦では一塁手として出場して、決勝で立命館に負けたものの準優勝という成績を収めることができた。部活動のオフ期間を経て、試合に出て全国大会に出場したいと目標を立てて日々練習に励んだ。

しかし、春リーグ前の大阪体育大学様との練習試合でファールゾーンにとんだフライを捕ろうとスライディングした際に膝を強打し、膝を怪我してしまった。怪我は春リーグの途中で完治したものの、思うように試合に出場できず、満足いく結果を出すことができなかった。そこから以前のように思うように結果を出すことができなくなってきて出場機会が少なくなっていった。試合に出場できず、とても悔しくて落ち込むこともあったが、仲間の支えのおかげで最後まで頑張ることができた。

特に印象に残っている試合は、三回生の秋リーグ九戦目の関西学院大学様との試合である。私はこの試合がこの秋リーグ初スタメンでチームとしては負けが続いていて良いチーム状況ではなかった。私は残り二試合楽しんで試合に勝っていい形で引退しようと思っていた。試合では初回にチャンスで打席が回ってきて大学野球の集大成として絶対に打とうとバットを振った結果、二点タイムリーヒットとなった。ベンチでは同期、後輩たちが一緒になって喜んで盛り上がってくれてとても嬉しかった。試合にも勝つことができ最高だった。

大学野球を振り返ると、悔しいことや苦しいこともあったが、自分たちの代で全国大会に出場でき本当によかった。そして、軟式野球部で同期をはじめ最高な仲間に出会い、一緒に野球をできたことは私にとってかけがえのない思い出となった。本当にありがとう。

末筆ではございますが、手塚監督、田村会長、塚本総監督、笠井部長をはじめ、多くの諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

社会学部四回生　中村　豊和

今、夏季全国大会の帰りのバスの中でこれを書いています。理由は悔しさと清々しさが入り交じるこの感情を残したいからです。

はじめに後輩達へ。四回生として、春季リーグ戦・全国大会でプレー出来る環境を作ってくれてありがとう。マジでこの一年が野球人生で一番おもろかった。

昨年度、チーム四年ぶりに全国大会へ出場し、初めて全国制覇の遠さを実感した。加えて去年よりも良い景色を見てみたいと思って、最上級生としてチームに残留した。春季リーグ戦は、我々の好敵手立命館大学を撃破し、五年ぶりにリーグ優勝を手に出来た。あの瞬間は今まで自分の野球史の中でも群を抜いて堪らない瞬間でした。

そして三日前から始まった全国大会。正直、開会式に参加した素晴らしい体格や顔つきをした他大学の選手達を見ても、『負けるわけが無い、彼らとは野球にかけた時間や熱量が違う』と思っていた。しかし残念ながら、結果は昨年と同じベスト十六で敗退だった。分析していたよりも相手が上手で、強敵だった。野球人生のラストに日本一になりたかった。なれると思ってた。それだけの時間と熱量をかけていたから。だから今は清々しさもありながら、悔しさの方が大きいのが本音です。

三回生には是非秋にリーグ優勝を経て、日本一になって欲しい。この随想をみんなが読む時は、秋の全国大会を勝ち進めて日本一の称号を得てることを祈ってます。そして出来るなら、四回生として長野オリンピックでの決勝戦 ゲームセットの瞬間にマウンドで歓喜の輪を作っているところを見せて欲しいです。

二回生には新人戦・春秋リーグ優勝の三冠をして、関六で同志社一強の時代を作り上げて欲しい。個人的に練習中も、それ以外も関わりの多かった学年です。現状に満足せず、島田率いる現幹部が作り上げた土台を活かしつつ、自分たちらしさの光るチーム作りをして下さい。

一回生はもっと上級生に噛み付いて、自分がチームを引っ張るという強い気持ちを持ってプレーしてください。

島田組、大和組の更なる飛躍を期待しています。

同回生へ。みんなが昨年全国に連れて行ってくれたから、今年の島田組の飛躍にも繋がったと思う。偉そうで、勝利に飢え狂えた主将でしたが、共にプレーをしてくれてありがとう。苦しくて、人生で一番しんどかった、主将としての一年間でしたがとても充実してました。

最後に両親へ。これまで野球を続けさせてくれてありがとうございました。野球というスポーツを選んで良かったです。

末筆にはなりますが、手塚監督、田村会長、笠井部長、塚本総監督をはじめ、多くの関係者には日頃から多大なるご支援、ご声援を賜りましたことを心より感謝申し上げると共に今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

文学部四回生　橋本　淳史

私は高校時代に甲子園を目標に全力で硬式野球に取り組んだ。しかし、私の学校はいわゆる弱小校であり、とても甲子園を目指せるようなチームではなかったため、目標にしつつもどこか諦めはついていた。そのため目標を掲げ、それに向けて全力で野球をやり遂げることができれば満足であり、大学では野球はやめておこうと考えていた。

しかし高校最後の夏はコロナにより甲子園がなかった。高校最後の夏はそれまでの集大成の場であり、最終学年として最も輝くことができる場であると考えていたため、私は不完全燃焼に終わってしまった。このままでは後悔をすると考え、大学でも野球をやろうと決意した。

大学に入り実際に大学の硬式野球部を見学するとレベルがとても高かった。私はあくまでも目標をもって試合にでることができ、その上野球を自分なりに楽しむことができることを願っていたため、今の軟式野球部が非常に魅力的に映った。また、高校の先輩と同級生が軟式野球部にいるということもこの野球部に入った大きな要因であった。

大学の軟式野球部では私は全国大会に出場するという目標をたてて入部した。目標を掲げ、それに向けて全力で野球をやり遂げることができれば満足であるという思いが高校時代と変わってなかったからである。一つ高校時代から変わっていたことがあるとするとこの掲げた目標というものが達成可能な目標に変わっていたことである。目標を達成できるかもしれないという予感は私の野球への意欲をより加速させた。

しかし、全国大会に出場することができるということは全国大会にふさわしい選手が集まっているということでもある。そのため、野球への意欲が高くとも自分のスキルや野球への理解力などの面で二回生の春までは試合に出ることはおろかベンチに入ることもできなかった。そのため、自分が輝ける場所を探した。私は打撃が得意であり、打撃であればチームに貢献できると考え、打撃にこだわった。その結果、二回生の秋からは代打ででるような機会が増えた。これによって目標である全国大会に出場を達成できたのではないかと考える。

二回生の春までは非常に苦しい時期であった。しかし、この苦しい中、三年間続けることができたのは、同期をはじめ、心優しい先輩や雰囲気よく練習を楽しくさせてくれた後輩のおかげである。最後の最後まで楽しかった、ありがとう。

末筆にはなりますが、手塚監督、田村会長、笠井部長を始め、多くの先輩方には日頃から多大なるご支援、ご声援を賜りましたことを心より感謝申し上げるとともに今後の同志社大学体育会軟式野球部のますますのご活躍を祈念しております。

随想

グローバル地域文化学部四回生　吉岡　樹生

「所詮大学軟式野球なんて」、「本気で野球できるのは高校まで」、そんな馬鹿げた勘違いをしていた私を同志社大学体育会軟式野球部に誘ってくれたのは、ある人物であった。高三の最後の夏の甲子園はコロナで中止。京都の代替大会は七イニングの試合だった。それに加え、私は夏の大会前に足の肉離れをし、最後の大会は背番号「一六」でグラウンドからではなく、ベンチの中で自身の野球人生を終えた。試合に負けた悔しさより、完全燃焼しきれなかった自分の情けなさに涙を流していた。

大学軟式野球では、二回生の春からレギュラーとして試合に出場し、首位打者とベストナインを獲得したが、順風満帆な大学野球とは言えなかった。全国大会まであとアウト三つのところで立命館大学にサヨナラ負けを喫し、全国出場の大チャンスを逃してしまったからだ。その後、私はアメリカに留学に行き、三回生の新年のスタートからチームに合流した。チームは新人戦で立命に勝ち優勝していたが、チームで唯一私だけが立命館相手に勝利を味わったことがなかった。打倒立命に燃えた春・秋季リーグの計四度の「同立戦」であったが、一度たりとも勝つことができなかった。このままでは引退できないと思い、後輩たちに無理なお願いをし、四回生としてチームに残留させてもらった。

私が立命に負け続けたのは同立戦だけではなかった。私の立命戦の始まりは中学三年の時である。オープンキャンパスで目にした綺麗な校舎に魅了された私は立命館高校を志望していた。私は野球推薦を得るためのセレクションを受けたが、医者も悩む原因不明の腰痛により思うようなプレーが出来ず、セレクションに落ちてしまった。これが私の人生で最初の立命館に負けた瞬間だった。それでも諦めたくなかった私は、一般受験で立命館を目指したが、立て続けに敗北した。大谷高校時代に練習試合で立命館高校と、秋の公式戦で立命館宇治高校と対戦したが、いずれも敗戦した。立命館は私の人生を通してのライバルであったのだ。こうしたバックグラウンドもあり、誰よりも打倒立命に燃えた私が迎えた、大学野球最後の春季リーグ戦では、毎リーグ恒例の優勝を懸けた同立戦を戦った。四年目にもなると「同立戦」の異様な雰囲気にも独特な緊張感にも慣れていた。そして、約七年間負け続けた立命館に八―四というスコアで悲願の勝利を果たし、五年ぶりのリーグ優勝を飾ることができ、最高の形で大学野球を締めくくることができた。また、大学四年間のリーグ戦で出場した立命戦全七試合でヒットを打ったという、ちょっとした自慢をしておきたいと思う。

最後に、「所詮大学軟式野球なんて」、「本気で野球できるのは高校まで」と思い込んでいた私を軟式野球部に誘ってくれた高校時代からのチームメイトである豊和と誰よりも熱心に勧誘してくれた豊和のご両親にこの場をお借りしてお礼をしたい。俺を軟式野球部に誘ってくれてありがとう。

随想

商学部四回生　平山悠斗

―序章―

日頃からご指導、ご支援をいただいている監督者の皆様、OBOG の皆様、その他関係者の皆様、心より感謝申し上げます。おかげさまで自分達が満足のいく環境で日々体育会軟式野球部の活動に取り組むことができました。今回、随想を書くにあたり目に通された全ての方が楽しく読めるようエッセイ仕立てにしました。楽しく読んでいただけると幸いです。

―第一章―野球を舐めていた自分

高校野球を終えて大学でも日本一を目指して野球をやるために同志社大学を選んだ。期待を膨らませて入部した軟式野球部だが、新型コロナウイルスによる活動制限、軟式野球の難しさ、自主性を持って取り組むことの難しさに直面し、思ったような一回生は過ごせなかった。二回生の時には新型コロナウイルスが落ち着き本格的に活動ができるようになった。しかし、先輩と衝突し、不貞腐れるという許されない行動を取ってしまった。自分の意見を高圧的に押し付けチームの雰囲気を壊し、自分のミスは環境のせいにしていた。この時すでに自分に負けていた。野球を辞める覚悟ができるくらい腐っていた。先輩方、チームメイトには申し訳ない気持ちしかない。そんな困難もたくさんの人に救ってもらい乗り越え迎えた三回生。主将の中村豊和をはじめ頼れる同期、後輩たちがたくさんいた。本当は「enjoy baseball」をやりたかったのが本音だが、日本一を取るためには楽しさよりも優先すべきことがあった。いろいろなものを犠牲にして全国大会ベスト一六という結果を残せてよかった。日々、厳しく接して嫌な気持ちになった選手もたくさんいたはずだ。そんな状況でも辞めずに最後までついてきてくれたこと、一緒に最後まで戦えたことに感謝している。

―第二章―これからの同志社を担う後輩たちへ

これからの同志社を担う後輩たちへ三つ伝えたいことがある。この三つは個人的な考えであり、正解でもなければ、そうしなければならないものでもない。君たちよりも一年、二年長く生きている先輩の一つの意見として参考にしてほしい。

一つ目は、とにかく思考し続けることを意識してみると良い。どうやったら試合に勝てるのか、どうやったら野球が上手くなるのか、とにかく時間を使って考え続けてみると良い。野球の実力では負けていても、思考力が上回っていれば勝てるスポーツが野球である。二つ目は、とにかく楽しんで野球をやろう。「楽しむ」の定義は人によって異なると思うが、自分は「勝つために全力を尽くす」と定義している。勝つために全力で練習をする、勝つために全力で考える、勝つために全力でリフレッシュする、勝つために全力でコミュニケーションを取る、など。全てリーグ戦、全国大会で勝つために全力を尽くせば楽しいと感じるはずだ。せっかく大学生にもなって野球に時間・お金・体力を投資するのであれば、全力で取り組んだ方が良いこ

とくらいみんなも気づくはずだ。最後三つ目は、何があっても自分に負けずに最後まで頑張ってほしい。これまでの野球人生を振り返ればわかると思うが、いつも上手くいくとは限らない。上手くいかない時は自分に負けやすくなる。自分に負けたらそこで野球人生は終わる。一日でも野球人生を長くするために自分に勝ち続けてほしい。

以上三点が後輩たちに伝えたいことである。この三つをやり切ることができれば君たちのこの先の人生は楽しく豊かなものになるに違いない。就職活動では学べない大事なことが大好きな野球を通して身につけられる。これからの君たちの活躍を期待している。

-第三章-これからの日本を背負う同志社ヒーロー達へ

自分たちは「同志社大学体育会軟式野球部」という看板を背負っている。同期、後輩たちが同志社ヒーローとして社会に価値を提供できる人間になることを心から期待している。どこにいても良い、どの仕事でも良い、どの業界でも良い、どの役職でも良い。何をするかではなく何を与えるかが大事だと考えている。同志社ヒーローが活躍する社会を一日でも早く見たい。

これから先はバラバラの道を歩むことになるが、目指しているゴールは同じではないだろうか。「自分が幸せになること」と「社会に価値を還元すること」。この二つは社会人の至上命題だと思う。次、再会した時には「俺らも立派な大人に成長したな」と言えるように頑張ろう。偉そうに文章を綴っているが、当たり前に自分が一番頑張ると心に誓う。これから先の人生も一緒に頑張っていける仲間でありたい。

-あとがき-

最後まで読んでいただきありがとうございます。改めて、同志社大学体育会軟式野球部を支えてくださっている関係者の全ての方々に感謝申し上げます。これからもよろしくお願い致します。自分も支える側に仲間入りして後輩たちにより良い環境を提供できるようサポートさせていただきます。

最後に、このエッセイをみなさんに見ていただけるのは今門良太（現三回生）が新球友の発行に尽力してくれたからです。ありがとう。今後も新球友がさらに良いものになることを心から願いながらそっとペンを置く。

※無理言って二ページ使わせてもらいました。申し訳ございません。

四回生終身成績

打撃成績

	打率	打席数	打数	安打	本塁打	打点	四死	犠打	盗塁
雨堤	0.500	2	2	1	0	1	0	0	0
天野	0.310	80	71	22	0	9	7	2	5
池田	0.242	171	149	36	0	19	16	6	20
小嶋	0.278	20	18	5	0	2	0	2	0
坂本	0.296	36	27	8	0	1	4	5	1
杉本	0.250	4	4	1	0	0	0	0	0
谷	0.333	31	27	9	1	3	3	0	0
東垣	0.226	61	53	12	0	7	7	1	5
中村	0.235	158	119	28	0	14	26	11	5
橋本	0.234	57	47	11	0	3	8	1	2
平山	0.138	81	65	9	0	5	10	6	2
本間	0.167	8	6	1	0	1	1	0	0
吉岡	0.268	201	164	44	0	14	26	10	24

投手成績

	防御率	投球回	打者数	被安打	被本塁打	与四死	奪三振	失点	自責
小嶋	2.33	65 2/3	271	44	1	33	35	22	17
坂本	0.95	103 2/3	406	55	1	32	41	13	11
谷	0.00	3	15	0	0	6	2	0	0
吉岡	1.86	72 2/3	282	50	1	14	41	21	15

好敵手

2023 年度　秋季リーグ戦

■2023 年　9 月 6 日　VS　関西大学①　　秋①

萩谷総合運動公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
関大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

［勝利投手］　小島　　［敗戦投手］　金安

［二塁打］　島田

■2023 年　9 月 7 日　VS　大阪公立大学①　　秋②

萩谷総合運動公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	2	0	0	0	2	0	0	4
大阪公立	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

◎成績

［勝利投手］　坂本　　［敗戦投手］　大内

［三塁打］　島田、高橋　　［二塁打］　柳瀬、中尾

■2023 年　9 月 12 日　VS　甲南大学①　　秋③

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	計
同志社	2	0	1	3	0	6
甲南	0	0	1	2	0	3

＊5 回雨天コールド

◎成績

［勝利投手］　坂本　　［敗戦投手］　牧野

［本塁打］　島田、福崎　［二塁打］小中、島田、岩崎

■2023 年　9 月 13 日　VS　立命館大学①　　秋④

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
同志社	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	5
立命館	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	5

＊大会規定より引き分け

◎成績

［二塁打］　長内

■2023 年　9 月 20 日　VS　甲南大学②　　秋⑤

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
甲南	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	0	0	2	1	1	0	0	3×	7

＊8 回コールド

◎成績

［勝利投手］　坂本　　［敗戦投手］　牧野

［本塁打］　唐木　　［三塁打］　天野、池田　　［二塁打］亀澤

■2023 年　9 月 21 日　VS　立命館大学②　　秋⑥

萩谷総合運動公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
甲南	0	0	0	0	0	3	0	1	2	6
同志社	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3

◎成績

［勝利投手］　秦　　［敗戦投手］　吉岡

［本塁打］　杉原　　［二塁打］　長内、水上、天野、中川

■2023 年　9 月 25 日　VS　関西大学②　　秋⑦

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
関学	0	0	1	0	0	1	6	8
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0

＊7 回コールド

◎成績

［勝利投手］　宮原　　［敗戦投手］　小島

［二塁打］　城井、楠元、本出、中川

■2023 年　9 月 26 日　VS　大阪公立大学②　　秋⑧

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大阪公立	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

［勝利投手］　小西　　［敗戦投手］　坂本

［二塁打］　杉本

■2023 年　9 月 27 日　VS　関西学院大学②　　秋⑨

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
同志社	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
甲南	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1×	4

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　大西

［二塁打］　森、小林、荒牧、戸城

■2023 年　10 月 3 日　VS　関西学院大学②　　秋⑩

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
関学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　岡崎

［二塁打］　谷

	大学名	立命館	同志社	関西	大阪公立	関学	甲南	勝	負	分
1	立命館		▲○	▲○	○○	○○	○○	8	0	2
2	同志社	▲●		○●	○●	○○	○○	6	3	1
3	関西	▲●	●○		○○	▲●	○○	5	3	2
4	大阪公立	●●	●○	●●		○○	○●	4	6	0
5	関西学院	●●	●●	▲○	●●		●○	2	7	1
6	甲南	●●	●●	●●	●○	○●		2	8	0

～ベストナイン～

投手　秦　（立命館）
捕手　杉本（大阪公立）
一塁手　襟川（立命館）
二塁手　山西（立命館）
三塁手　中川（同志社）
遊撃手　亀澤（甲南）
外野手　杉原（立命館）
　　酒井（関西）
　　岡内（大阪公立）

最優秀選手　襟川（立命館）
優秀選手　成尾（同志社）
首位打者　中川（同志社）.438
本塁打王　襟川（立命館）2 本
　　村上（甲南）
　　高橋（関西）
打点王　襟川（立命館）14 打点
盗塁王　島田（同志社）8 個
　　池田（同志社）
最優秀防御率　成尾（同志社）1.32
最多奪三振王　岡部（関大）23 個
新人王　小山（関大）

2023年度　新人戦

■2023年　10月10日　VS　立命館大学

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
立命館	0	0	2	0	1	0	2	0	0	5

◎成績

［勝利投手］　今井　　［敗戦投手］　成尾

［二塁打］　安井、坂東

2024年度　春季リーグ戦

■2024年　4月1日　VS　関西大学①　　春①

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
関西	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　後藤

［三塁打］　島田、土山　　［二塁打］　大和、檜山

■2024年　4月11日　VS　大阪公立大学①　　春②

萩谷総合運動公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大阪公立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	1	1	0	0	0	0	0	0	×	2

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　大内

［三塁打］　松田、吉岡

■2024年　4月17日　VS　甲南大学①　　春③

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
甲南	0	5	0	0	0	0	1	0	0	6
同志社	1	1	0	0	5	0	0	0	×	7

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　婦木

［本塁打］　亀澤、岡本　　［三塁打］　吉岡　　［二塁打］　岩崎、浅田

■2024 年　4 月 18 日　VS　関西学院大学①　　春④

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関学	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
同志社	1	0	0	0	0	1	0	1	1×	4

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　北田

［本塁打］　酒井、吉原

■2024 年　4 月 29 日　VS　大阪公立大学②　　春⑤

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大阪公立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　大内

［二塁打］　今門、島田、吉岡、下

■2024 年　4 月 30 日　VS　立命館大学①　　春⑥

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8
立命館	0	1	1	0	0	2	0	0	0	4

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　藤野

［二塁打］　島田、今門、襟川

■2024 年　5 月 8 日　VS　関西学院大学②　　春⑦

寝屋川公園第一球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	1	2	0	1	1	0	0	6
関学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　北田

［二塁打］　島田、吉岡(2)、佐々原

■2024 年　5 月 9 日　VS　甲南大学②　　春⑧

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	1	1	0	0	0	0	1	0	4
甲南	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　婦木

［本塁打］　江金　　［三塁打］　大和、婦木、亀澤　　［二塁打］　亀澤、喜田

■2024 年　5 月 14 日　VS　関西大学②　　春⑨

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関西	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
同志社	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3

◎成績

［勝利投手］　成尾　　［敗戦投手］　金安

［本塁打］　島田　　［二塁打］本庄、大和

■2024年　5月17日　VS　立命館大学②　　春⑩

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
立命館	0	4	0	0	0	0	0	5	0	9
同志社	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3

◎成績

［勝利投手］　杉本　　［敗戦投手］　斎藤
［本塁打］　襟川　　［二塁打］杉原、襟川、丸本

	大学名	同志社	立命館	大阪公立	甲南	関学	関大	勝	負	分
1	同志社		○●	○○	○○	○○	○○	9	1	0
2	立命館	●○		○○	●○	○○	○○	8	2	0
3	大阪公立	●●	●●		▲●	○○	○○	4	5	1
4	甲南	●●	○●	▲○		●●	○●	3	6	1
5	関学	●●	●●	●●	○○		○●	3	7	0
6	関大	●●	●●	●●	●○	●○		2	8	0

～ベストナイン～

投手　唐木（同志社）
捕手　杉本（大阪公立）
一塁手　襟川（立命館）
二塁手　山西（立命館）
三塁手　水上（立命館）
遊撃手　吉岡（同志社）
外野手　伊藤（立命館）
　　杉原（立命館）
　　丸本（同志社）

最高殊勲選手　唐木（同志社）
最優秀選手　伊藤（立命館）
首位打者　伊藤（立命館）.455
本塁打王　該当者なし
打点王　伊藤（立命館）12打点
盗塁王　島田（同志社）7個
　　江口（関学）
最優秀防御率　唐木（同志社）0.84
最多奪三振王　大内（大阪公立）38個

第 4 回全日本大学軟式野球選抜大会

■2024 年　8 月 19 日　VS　徳島大学

長野オリンピックスタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
徳島	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
同志社	0	0	0	0	1	0	4	2	×	7

◎成績

［勝利投手］　唐木　　［敗戦投手］　中村

［二塁打］　岩田、大和、吉岡

■2024 年　8 月 20 日　VS　大東文化大学

中野市営野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大東文化	0	0	1	1	0	0	1	1	0	4
同志社	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2

◎成績

［勝利投手］　麻生　　［敗戦投手］　成尾

［本塁打］　島田　　［三塁打］　安道、山口、杉田　　［二塁打］　鈴木、柳瀬

MEMORIAL　SNAP

主将　中村豊和＃１０

副主将　平山悠斗＃３２

副主将　池田駿介＃２６

MEMORIAL SNAP

主務　雨堤健太＃２１

谷　尚樹＃１

吉岡　樹生＃６

MEMORIAL　SNAP

橋本　淳史＃9

坂本　一磨＃18

小島　健心＃20

MEMORIAL SNAP

天野　良亮＃24

東垣　楓人＃41

杉本　大地＃53

MEMORIAL　SNAP

本間　習平＃60

マネージャー　梅田佳奈

同志社大学体育会軟式野球部規約

第１章 総　則

第１条（名　称）

本部は同志社大学体育会軟式野球部と称する。

第２条（目　的）

本部は同志社大学体育会の一員としての自覚と誇りを持ち、体育会、連盟および会員相互の親善・交流を通じて、スポーツマンとして健全なる人格を形成し、心身ともに向上することを目的とする。

第２章 組　織

第３条（組　織）

本部は第１章第２条の主旨を積極的に賛同する学生によって組織される。また、運営にあたり、下記の機関を設ける。

1、総会

2、幹部会

3、役員会

第３章 部　員

第４条（資　格）

本部員たる資格は同志社大学或いは同志社女子大学の学生で所定の部費を納入し、本部の主旨に賛同する者のみに与えられる。尚、硬式野球部、準硬式野球部並びにサークル、外部野球団体に所属する者には資格を与えない。

第５条（義　務）

第１項　本部員は本部の向上発展に寄与し、所定の部費を完納する義務を負う。

第２項　本部員は総会および諸行事に積極的に参加、出席する義務を負う。

第６条（入　部）

入部希望者は、入部届の提出を以て正式入部とする。中途入部希望者は、監督と幹部会の承認を得て入部可能とする。また中途入部者は、入部届の提出月より部費を納入する義務が発生する。

第７条（長期休部）

長期休部は、病気その他の事情により、幹部会がその理由を正当とみなし、休部届を提出した場合において承認する。尚、長期休部中は部費の納入義務を負わない。

第８条（除　籍）

本部員において、次の各項に該当する者は、幹部会において審査し、退部を命ずることができる。

第１項　無届長期休部したる者。

第 2 項　所定期間によって無届で部費を納入せざる者

第 3 項　本部規約に違反し、本部の品位を乱したる物

第 9 条（再　入　部）

退部を命ぜられた者が自ら反省し、自らの人格と品位を完全に回復し、その信用性が認められた者にのみ、役員会で審査し、これを認めることができる。

第 10 条（自主退部）

何らかの理由で、自主退部を希望する者は、退部届の提出を以て退部とみなす。また、退部届の提出月までは部費を納入しなければならない。

第 4 章　役　　員

第 11 条（定　　款）

本部は次の役職を置く。

主　　将　1名

副　　将　1名以上

主　　務　1名

会　　計　1名

連　　盟　1 名

渉　　外　1 名

合　　宿　1 名

ホームページ　1 名

新球友　1 名（兼務可）

第 12 条（任　期）

役員の任期は原則 1 年とし、前幹部・前役員会からの指名もしくは幹部会・役員会の話し合いで各職を決定する。

第 13 条（体育会本部委員）

同志社大学体育会本部からの要請があった場合、臨時職として、体育会本部委員を選出する・任期は年数に限らず、最終学年までとする。

第 5 章　役員の任務

第 14 条（主　　将）

主将は、本部を代表し、本部に関する全ての事項を責任もって遂行する。

第 15 条（副　　将）

副将は、全面的に主将を補佐し、主将不在中は役務を代理遂行する。

第 16 条（主　　務）

主務は、諸行事の運営、OB との連絡、スポーツ支援課・体育会本部・他クラブ等との接触、各役職の補佐、及び決定事項を承認する。

第 17 条（会　計）

会計は、本部の金銭出納の管理に関する全てを責任もって遂行する。

第 18 条（連　盟）

連盟は、関西六大学学生軟式野球連盟に関する全ての事務を行い、総会に出席し、その決議を全部員に報告する。

第 19 条（渉　外）

渉外は、練習グラウンドの確保を遂行する。

第 20 条（合　宿）

合宿は、合宿や遠征に関する交渉を遂行する。

第 21 条（ホームページ）

ホームページは、本部のホームページの管理を遂行する。

第 22 条（新 球 友）

新球友は、「新球友」製作に関する全ての事務を行う。

第 6 章 総　会

第 23 条（権　限）

総会は最高意思決定機関であり、規約の改正、会計報告の承認、その他本部全般に関わる重要事項を決定する。その際、原則的に全部員の出席を必要とする。

第 24 条（招　集）

総会は定例総会として年 2 回、春季・秋季シーズン終了時に開催する。但し、部員または幹部会の要望がある場合は、臨時総会を開催できる。

第 7 章 幹 部 会

第 25 条（権　限）

幹部会は、本部の執行機関であり、責任をもって本部の運営にあたる。

第 26 条（構　成）

幹部会は、主将、副将、主務、会計、連盟で構成される。

第 8 章 役 員 会

第 27 条（役 員 会）

役員会は、本部の活動を円滑に行う上で、役員が必要としたとき召集される。

第 28 条（構　成）

役員会は、主将、副将、主務、会計、連盟、渉外、合宿、ホームページ、新球友で構成される。

（体育会本部委員が存在するときは、それも含む）

第 9 章 部　費

第 29 条(納　　入)

部費は月納とする。選手は月額 2,000 円、マネージャーは月額 1,000 円とする。また納入期間は、2 月から 11 月までの 10 か月間とする。但し、1年次生の新入部員は 6 月から納入開始とし、4 年次生は 5 か月分を納入することとする。

第 30 条(金額の改定・追加)

金額の改定追加は、全部員の承認を得なければならない。

第 10 章 部長・監督・コーチ

第 31 条(権　　限)

本部は、部長・監督・コーチを置き、本部の学生を中心とする活動に対して、適切な助言を与える。

第 32 条(部　　長)

部長は、同志社大学教授より、選出、依頼し大学長からの委嘱により就任する。尚、教授不在の場合、体育会の承認があれば、その限りではない。(1 名)

第 33 条(監　　督)

監督は、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(1 名)

第 34 条(コ ー チ)

コーチは、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(複数名可)

第 11 章 規約の改正

第 35 条(規約の改正)

本部の規約の改正は、幹部会において検討し、総会において出席者の 3 分の 2 以上の賛同を得なければならない。

第 12 章 付　則

第 36 条(施　　行)

本規約は、平成 28 年 7 月 30 日よりこれを施行する。

公式大会登録に関する規定

第一章　公式大会の種類

第1条　本連盟の主催する下記の大会を公式大会とする。

1．　春、秋期リーグ戦

2．　新人戦

3．　その他本連盟の定めた大会

第二章　公式大会出場資格

第2条　出場するにあたっては、本連盟規約に定める会員でなければ出場できない。なお、 選手登録は、リーグ戦開始一週間前とする。

第三章　規律違反チーム又は選手の処置

第3条　公式大会出場チーム又は選手が下記各号に該当するときは連盟委員の合議により相 当の処置を行う。但し、ここの選手の違反はチームの責任とする。

1．　不正登録チームの出場

イ　試合中発見された場合は相手方に勝利を与える。

ロ　試合終了後に発見された場合も相手方に勝利を与える。

ハ　優勝決定戦終了後に発見された場合は準優勝者を優勝者とする。

2．　軟式野球規則に対する違反

軟式野球規則に従い審判員のくだしたいかなる判定に対しても服従しないもの。

3．　大会秩序を乱し、その進行を妨げる行為

軟式野球の正しい発達を阻害するような言動を行い、大会の進行を妨げる行為をしたもの。 但しその行為をしたものがそのチーム又は選手の関係者であってもこの規定は準用する。

4．　放棄試合

放棄試合をした場合は相手方に勝利を与える。

第四章　出場人員

第4条　各学校は主将を含めた競技者によって編成し、主将は10番を付けこれ以外の選手の抗議は一切認めない。

第五章　服装

第5条　選手は必ず同一のユニフォームを着用すること。これに反した者は出場できない。 又ズックの使用も禁ずる。負傷等によりやむを得ず使用する場合は主審の許可を得ること。
第6条　各選手は試合に臨むにあてってすべて学生服及びグラウンドコートを着用の上球場に集合すること。
尚連盟会議及び納会などの連盟行事のある際も上記のとおりの服装を持って集合することを厳守すること。

第六章　リーグ戦

第7条　順位は各校2回総当たり、勝ち点制によって決する。勝ち点が同数の場合は当事者間による対戦成績により決する。(優勝決定戦は行わない) 勝ち点が同数かつ直接対決で 1 勝 1 敗の場合は、直接対決の得失点差で決める。
第8条　試合は9回戦とする。
第9条　日没及び降雨コールド試合は5回終了後とする。
第 10 条　本連盟ではコリジョンルールを適用する。
第 11 条　全試合終了後記録の優れていた者に対して下記の賞を与える。
最高殊勲選手賞　　最優秀選手賞　　最優秀新人賞(新人戦)
首位打者(規定打席数 30)　　打点王　　盗塁王
最優秀防御率賞(規定投球回数 25)　　ベストナイン

第七章　新人戦

第 12 条　新人戦は各校によるトーナメント戦によって優勝を決する。
第 13 条　試合は9回戦とする。
第 14 条　新人戦は年1回行うものとする。

第八章　付記

第 15 条　本連盟により開催される各試合は審判に絶大なる権限をあたえるものとする。
第 16 条　グランド内に於いては一切の暴力行為を禁ずる。これに反した場合は厳重の処罰をあたえる。
第 17 条　捕手は原則として、事故防止のため、レガース、マスクの着用を義務づける。

球友会各位

秋冷の候、先輩諸兄におかれましては、ますますご清栄のことをお慶び申し上げます。ＯＢＯＧの皆様にはＯＢ会費など多大なる経済的ご支援を賜り、部員一同感謝しております。

昨年は、新型コロナウイルスによる制限がなくなり、軟式野球部の活動が十分に行うことが出来ました。春季リーグ戦では、二戦目に立命館大学に1-3で敗北し、その後、接戦をものにし連勝で迎えた立命館大学との2戦目。初回から先頭打者本塁打を浴び、そのまま反撃をすることが出来ず、1-5で敗北しました。その後の試合は勝利し、リーグ2位で終えました。その後は関西ブロック大会に出場し、厳しい戦いにはなりましたが、優勝を果たし全国大家出場を決めました。全国大会では、惜しくもベスト16という結果になり全国制覇の夢は後輩に託されました。全国大会の敗戦から休む間もなく秋季リーグが始まりました。秋季リーグは春と打って変わり、接戦をなかなかものにできず、苦しいリーグ戦となりました。立命館大学との直接対決では1敗1分と勝利には至りませんでした。結果的に6勝3敗1分の2位で終了しました。

その後チームは代替わり、オフシーズンを挟み2月より活動を再開しました。和歌山県への合宿や、社会人チームとの練習試合を通して、チームは着実に成長していきました。全国制覇を目指し、挑んだ春季リーグ戦、雨などの天候不良により約2か月間にも及ぶ長期戦となりました。チームは順調に勝ち続け5勝0敗で迎えた立命戦。序盤、立命館大学先制されるも粘り強い野球で5回まで3-2でリードして前半を終えました。整備の時間を挟み、円陣を組んで臨んだ6回表一挙5得点を挙げ試合を決定づけました。結果、8-4で勝利し同志社大学は5年ぶりに立命館大学に勝利をあげました。その後も苦しみながらも勝利を重ね、9戦目にリーグ優勝を果たしました。

全国大会では、昨年のベスト16という壁を乗り越えるべく最善を尽くし臨みましたが、今年も同じくベスト16で敗退しました。その後、関西ブロック大会で勝ち上がってきた立命館大学が全国制覇を成し遂げ、とても悔しい結果となりました。悔しい思いを持ち臨んだ秋季リーグ戦、序盤からチームの状態が上がらず5勝4敗1分のリーグ3位で終えました。

後輩たちが、私たちの記録を超えてくれると信じています。私達、部員一同が野球に打ち込めていたのも、先輩諸兄の多大なる支援のおかげであります。部員一同感謝申し上げます。ご支援に報えるよう、後輩たちには日々の練習に精進し、最高の結果を目指してもらいたい所存でございます。

今後も部員一同、体育会軟式野球部のさらなる発展のため、なお一層の努力を重ねてまいります。その中で、先輩諸兄のご協力を頂くこともあるかと存じます。何卒私たちの考え方にご理解、ご協力をお願いしますとともに、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年度球友会会計報告
（2023年4月1日～2024年3月31日）

単位：円

収　入		支　出	
球友会会費(78名)	468,000	通信費、事務費	31,510
特別寄付(20名)	89,000	新球友制作費	112,200
		秋季総会･懇親会	783,035
総会懇親会会費（球友会会員）	147,000	学生支援	573,688
総会懇親会会費（学生）	245,000	監督、コーチ支援	60,250
		体育会、ユニオン、校友会	180,853
受取利息	12	その他	0
		手数料	5,555
小　計	949,012	小　計	1,747,091
前期繰越金	1,620,210	次期繰越金	822,131
合　計	2,569,222	合　計	2,569,222

単年度収支	▲ 798,079

会長　　田村　好司　　印

会計　　岩佐　拓己　　印

提出された帳簿及び関係書類について監査した結果、
その内容が正確且つ適正であることを認めます。

2024年7月7日　　会計監事　木下　幸典　　印

会計監事　柴田　嘉宏　　印

2023年度 特別寄付納入者

（敬称略）

卒　年	氏　名	卒　年	氏　名
S42	松永　正敏	S59	坂下　雅弘
S43	廣田　憲司	S61	田中　豊
S43	安田　一夫	S61	永井　靖典
S47	倉橋　公生	S62	坂本　忠司
S50	村田　敬	S63	柴田　嘉宏
S53	田村　好司	H2	阿多　一永
S53	高室　和彦	H9	小島　武士
S54	渋谷　武	H10	古谷　将彦
S56	新井　典幸	H14	原田　明徳
S56	小林　宏行	H29	大友　健裕

20名

2023年度 球友会会費納入者

（敬称略）

卒　年	氏　名	卒　年	氏　名	卒　年	氏　名
S42	松永　正敏	S62	砂子　達矢	H16	花岡　孝圭
S43	廣田　憲司	S63	柴田　嘉宏	H16	柳原　淳史
S43	安田　一夫	S63	森川　潔	H18	岩田　拓朗
S44	高柳　仁見	H2	阿多　一永	H18	白坂　浩明
S46	大野　正宣	H6	山田　章生	H18	平野　隆仁
S46	塚本　幸雄	H9	小島　武士	H18	藤森　稔人
S47	倉橋　公生	H10	古谷　将彦	H19	柳田　一樹
S48	上原　隆司	H11	桑原　崇	H19	柳本　寛之
S50	村田　敬	H11	福島　圭吾	H21	北村　直義
S51	木下　幸典	H12	川上　晋	H21	牧原　光章
S53	金澤　聰	H12	前田(柳原)　由紀子	H22	植松　尊之
S53	高室　和彦	H14	岩佐　拓己	H22	深澤　孝典
S53	田村　好司	H14	嘉田(山田)　亜貴子	H23	三本木　秀樹
S54	渋谷　武	H14	河野　友己	H25	杉山　裕是
S56	新井　典幸	H14	原田　明徳	H25	林　智之
S56	大倉　廣継	H15	木邑　吏予子	H25	渡辺　亮介
S56	小林　宏行	H15	後藤　洋司	H26	笠川　直人
S56	手塚　整廣	H15	塩田　耕一	H27	神所　佑希
S58	平山　正則	H15	重永　真理子	H27	豊田　貴至
S59	坂下　雅弘	H15	鈴木　勝也	H27	吉田　隼人
S61	倉貫　博巳	H15	豊田　幸平	H28	木下　皓基
S61	田中　豊	H15	柳田　一匡	H28	冨田　侑希
S61	塚田　武文	H15	山本　和広	H29	大友　健裕
S61	土井　清吾	H15	吉本　貴則	H29	小林　智之
S61	永井　靖典	H15	吉田　絵里	H30	藪下　匠
S62	坂本　忠司	H16	島尾　聡	H31	小野　結衣

78名

同志社大学体育会軟式野球部球友会会則

2017.11.25 改定、2018.4.1 施行

第１章　総則

第１条　本会は、同志社大学体育会軟式野球部ＯＢＯＧ会とし、「球友会」と称する。

第２条　本会は、ＯＢＯＧ相互間及びＯＢＯＧと現役学生部員との親睦を図り、同部及び同会発展の推進に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、同志社大学体育会軟式野球部とその起源となる同好会に所属していた者をもって組織し、「球友会会員」と称する。

第２章　事業

本会は、第１章第２条の目的を達成するため、次の事業を行う。

１．同志社大学軟式野球部に対する後援

２．総会、懇親会の開催

３．同志社大学に対する後援

４．その他、目的達成に必要な事業

第３章　役員

第１条　本会は、次の役員を置く。

１．会長　　１名

２．副会長　１名以上

第２条　役員の任務は、次の通りとする。

１．会長：会の代表として、会の運営に責任を持つ。また、総会においては議長を務める。

２．副会長：会長を補佐し、会の運営にあたる。また、会長がその任務を務めることができないときは、その代わりを務める。

第３条　役員の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第４条　役員の任期は２ヶ年とし、再選を認める。

第５条　役員が何らかの事情により、任期の途中で交代せざるを得ない場合は、役員会に一任する。（第８章の条項に従う）

第４章　監査役

第１条　本会は、監査役を１名以上置く。

第２条　監査役は本会の会計監査を行い、その結果を総会で報告する。また、会則が適正に運用されていることも監査し、必要に応じてその結果も報告する。

第３条　監査役の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第４条　任期は２ヶ年とし、再選を認める。

第５章　球友会事務局

第１条　本会は、「事務局」を置き、当会の運営全般と学生との調整役を務める。

第２条　事務局には、会長の指名により、球友会会員の中から事務局長１名と事務局員数名を置く。

第３条　事務局長は、会長の指示により、事務局業務全般を指揮し、その責任を負う。また、その業務内容については、必要な事項があれば適宜総会等で報告することとする。

第４条　事務局員は、事務局長の指示により、本会の総務と会計業務を行う。

第５条　会計担当は、総会で球友会に関する収支や会費等の使途を報告しなければならない。

第６条　事務局長は、総務又は会計担当業務を兼務することができる。

第７条　事務局長と事務局員の任期は２ヶ年とし、再任することもできる。

第６章　その他の役職

第１条　本会には第３、４章に定めた役職以外に以下の役職を定める。

１．顧問　　必要に応じて設定

２．幹事　　各年代１名

第２条　顧問への就任、任務等は以下の通りとする。

１．本会の運営等について球友会会員のほか、特に必要と認められる者が就任することができる。

２．就任には総会の承認を必要とする。

３．本会の運営等について助言等を行う。

４．任期は２ヶ年とし、再任することもできる。

第３条　幹事への就任、任務等は以下の通りとする。

１．各卒業年度生から１名選出し、その選出には各卒業年度生に一任する。

２．任期は定めない。しかし、交代するときは必ず事務局に報告しなければならない。

３．幹事は、球友会会員間の連絡の中心を務め、円滑な本会の運営に努めなければならない。

４．４回生は卒業する年度末までに事務局に届け出なければならない。

５．会長が必要と認めたときは、幹事会を開催することができ、積極的な参加が求められる場合がある。

第７章　総会

第１条　総会は年２回、現役学生の春季、秋季リーグ終了後に開催する。

第２条　会長が必要と認めたときは、第１条の他に臨時に開催することができる。

第３条　総会は次のことを報告、審議決定する。

１．事業報告（会計報告）

２．重要案件の決定

３．役員の選出

４．会員の入会、退会

５．会則の改廃および追加

６．軟式野球部の活動報告

７．その他必要と認められる案件

第４条　総会での決定事項には、その球友会出席者の過半数を必要とする。

第５条　総会での決定が時間上間に合わない場合は、役員会に一任し、後日総会で報告しなければならない。

第６条　総会には現役学生も参加し、球友会会員と相互の親睦を図ることとする。

第８章　役員会

第１条　役員会は、本会役員で構成し、本会の執行機関として責任もってその運営にあたる。

第２条　役員会は、第７章第３条の項目以外の審議事項及び同章第６条の状況において、決定権を有する。

第３条　役員会での決定は、全会一致とする。

第４条　何らかの事情により、役員会がその機能を果たせない場合は、その機能が回復するまでの間、監査役と事務局が、その代行を務めることとする。

第９章　会費

第１条　球友会の会費は、球友会会員１名につき、年間６，０００円とする。

第２条　第１条以外にも臨時に特別寄付を徴収することがある。

第３条　会費は、以下の項目に関することに使用する。

１．軟式野球部の活動支援

２．球友会の公式行事及びそれに類するもの

３．第１０章第１条及び第２条の事項

４．その他球友会活動に関すること

第１０章　その他

第１条　球友会会員による同志社ユニオンや大学、諸連盟主催の公式行事や会議等への出席について、主要駅間の交通費に関しては役員会でその内容を検討のうえ、球友会より支援する。なお、宿泊費その他関連する費用については、原則適用外とする。

第２条　球友会会員死亡時は、役員会で協議の上、球友会より相応の対応を行う。詳細は以下の通りとする。

１．原則対象は、本会及び軟式野球部の役職に就いている者とする。

２．上記の一親等にあたる親族（配偶者・子）については、役員会の判断とする。

３．上記１以外の球友会会員についても、役員会の判断とする。

以　上

編集後記

会報「新球友」第四四号発刊に際し、ご多忙にも関わらず、ご寄稿賜りました先輩諸兄・四回生の皆様、立命館大学の山西様、部長の笠井高人准教授、球友会会長の田村好司様、監督の手塚整廣様、コーチの藤森稔人様、事務局長の鈴木勝也様をはじめ関係者各位の皆様、そして原稿集めや原稿整理に協力していただいた部員・マネージャー諸氏に心より厚く御礼申し上げます。

私自身、このような重要な冊子を作成するのにパソコン操作が不慣れな上に、データ編集の経験がなく不安でしたが、前任の四回生平山さん（前副主将）のお力添えのおかげで無事に第四四号「新球友」の発行が叶いました。本当にありがとうございました。また、編集にあたる不手際や連絡内容の曖昧さにより先輩諸兄にご迷惑ご無礼をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。何かと至らない点があるかと思いますが、この会報「新球友」を通して、軟式野球部員の活動を身近に感じていただければ嬉しく思います。また、楽しかった軟式野球部での活動を思い出していただく一つのきっかけになれば幸いです。

今後の発刊に際しましても「新球友」が永久に続き、皆様のご交流のお役に立っていくことを心より願っております。

「新球友」四四号

二〇二四年十一月発行

発行者　同志社大学体育会軟式野球部

編集者　今門　良太

印刷所　株式会社　春日　京都支店
ＴＥＬ（０７５）４１７・５５７７
ＦＡＸ（０７５）４１７・５５８８